一般演題

1. 核医学インビトロ検査で生じる放射性廃液処理装置の使用経験

栄　文也　大浪　俊平　小川　治久
（産業医大・放部）
塩崎　宏　中田　肇　（同・放）

最近インビトロ検査で生じる放射性廃液量は，IRMA法の普及により著しく増加し，現存の排水処理設備に直接放出することも困難な状況となってきている．そこでわれわれは，放射性廃液処理装置の製品化されたものを使用する機会を得，その基礎的検討を行ったので報告する．

あらかじめ計測した放射性廃液にトリクロロ酢酸を加え蛋白凝固させた．その後，チャコールおよびレジンを充塡した容器に入れ，翌日まで静置して処理済み廃液を取り出し，適宜希釈して排水した．

本装置使用により廃液中の放射能量は1％以下に減少した．また装置周囲での被曝は鉛板や鉛ブロックにより防止可能であった．

2. 最近経験した病的所見と紛らわしいシンチグラム上のアーチファクトについて

藤善　史人　中條　政敬　岩下　愼二
中別府良昭　田之上供明　篠原　愼治
（鹿児島大・放）

今回われわれはシンチグラム上，病的所見と紛らわしいアーチファクトを経験したので報告した．症例1は甲状腺癌術後の患者で，診断量の ^{131}I 投与後右上腕部に集積を認め，転移が疑われたが，脱衣のうえ再検したところ集積は消失し，右上腕部で口を拭く患者の癖による唾液汚染と考えられた．症例2は骨シンチにて胸骨柄部に異常集積を認めたが，左鎖骨下静脈より刺入したIVHチューブ内の集積であった．症例3は $^{99m}TcO_4^-$ による甲状腺シンチにて巨大腫瘍の存在も疑われたが，食道内の唾液の RI activity による影響と考えられた．症例4は左足第一趾原発悪性黒色腫術後の片麻痺のある患者で，^{123}I-IMP シンチにて右大腿部に2個の異常集積を認め転移を疑ったが，再検にて消失し，尿による汚染と推測された．

3. 新しい腫瘍マーカー SPan-1 抗原の検討

小川　治久　大浪　俊平　栄　文也
（産業医大・放部）
塩崎　宏　中田　肇　（同・放）

新しい膵癌関連糖鎖抗原 SPan-1 の基礎的，臨床的検討を行った．

対象は膵癌13例，胆嚢・胆管癌23例，肝癌43例，胃癌27例，大腸癌23例，食道癌17例，肺癌20例，乳癌10例，良性疾患98例および健常人66例である．

再現性，回収率および希釈試験などの基礎的検討はともに良好であった．健常人66例の SPan-1 値は 3～33.8 U/ml でその97％が分布する 30 U/ml をカットオフ値とした．肝硬変，胃潰瘍，膵炎などの良性疾患でも SPan-1 陽性例が認められたが，その多くは軽度の上昇であった．悪性腫瘍における SPan-1 の陽性率は，膵癌 84.6％，胆嚢胆管癌 69.6％，肝癌 67.4％，胃癌 33.3％，大腸癌 17.4％，食道癌 17.6％，肺癌 5％，乳癌 10％であった．

4. D-9110 (第一 RI) による β_2 ミクログロブリン測定

篠原　雄二　杠　しのぶ　大塚　誠
一矢　有一　桑原　康雄　田原　隆
増田　康治　（九州大・放）

RIA 法による β_2 ミクログロブリン測定は，腎機能検査法として，あるいは腫瘍マーカーとして広く臨床応用されている．今回第一RIにより新たに開発されたD-9110による血清および尿における測定を行ったので報告する．本キットは，モノクローナル抗体を用いており，測定はチューブ固相法によるものである．

基礎的検討では，再現性，希釈試験，回収試験ともほぼ良好な結果であった．他キットであるファルマシア製 β_2 ミクロリアとの相関は，血清では $Y=0.92+0.44$, $r=0.998$, $Y=1.14+0.01$, $r=0.998$ 尿ではといずれもきわめて良い相関を示した．また，各種臨床例における結

Presented by Medical*Online